

市民活動状況
(9月末日現在)

市内NPO法人数 32 団体
当センター登録団体数 148 団体
来館者数 1,055人
印刷機利用枚数 8,145枚

龍ヶ崎市市民活動センターだより VOL.195

2025年11月号



発行枚数 500枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 島村宏之



龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。

会議スペース・市民交流サロン・作業スペース・印刷機・紙折り機・多目的室等(1階)や

大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)がご利用いただけます。

開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。

休館日 = 月曜日および年末年始、特別に定める日

〒301-0004 龍ヶ崎市駒馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571

E-mail center@ryugasaki-shiminkatsudo.net URL https://ryugasaki-shiminkatsudo.net



市民団体活動紹介シリーズ No.49「鼓打魂」

目指せ！市民活動日本一

さいとうかなみ

代表 齊藤桂南さんは子ども・学生・主婦・社会人の仲間と和太鼓で龍ヶ崎市を盛り上げる活動も続けています。今年の長山新春祭りでの和太鼓の演奏がすごく好評でしたので7年10月5日の「長山秋のわくわくフェスタ」にも呼ばれて10人で和太鼓を力強く立派に演奏を披露してくれました。(写真掲載)拍手喝采に包まれました。

さいとうかなみ

齊藤桂南さんは他にも社会貢献活動団体を始動されています。

地域おこしユニット「ごはんたけました」では龍ヶ崎市産のお米を食べるイベントの開催、FMラヂオつくばにて龍ヶ崎市の魅力を発信しています。

また、「いろんな国のママ集まろう」ではいろんな国のお母さんが暮らしやすい町をめざし、いろんな国のお母さん、子どもたちの交流会を行っています。

さらに「みんなのりゅうフェス」では 人がたくさん集うイベントをつくるを目的に音楽ステージのある等のイベントを開催します。



市民環境会議文化環境部会による道標巡りツアーの報告

9月20日(土)龍ヶ崎市民環境会議文化環境部会の皆様の協力の下、龍ヶ崎の道標を訪ねて『古を知る龍ヶ崎の道標』出版記念「道標巡りツアー」を開催しました。

参加者24名、案内役の文化環境部会11名、市民活動センタースタッフ2名、総勢37名の参加があり、狭い空間での解説は2グループに分かれています。

集合場所と時間は午前9時30分馴柴小学校前駐車場。島村センター長の開会の挨拶に続いて文化環境部会を代表して枠田会長から龍ヶ崎の道標が出版に至った経緯についての話がありました。道標の解説は主に後藤さん。コース内に所在する神社や史跡についての解説は主に瀧口さん。

冊子では市内69基の道標が紹介されていますが、今回の2時間半のツアーでは時間的な制約があり川原代地区小屋坪と馴柴地区の南中島町及び若柴町合わせて5か所6件の道標で全体のほんの一部に過ぎません。それでも路傍に建つ道標を実際に目で見て触れながら話を聞くことで、より理解が深まったと思います。

馴柴小学校を出発しコースを一巡し最後は馴柴小学校の角に建つ市指定文化財道標を見学。質問等もたくさんありましたが、時間はたった15分ほどのオーバーで、ほぼスケジュール通りに進行しました。これは文化環境部会の皆様の高齢者などを考慮したコース選びと念の入った打ち合わせによるものと考えます。文化環境部会の皆様ご協力ありがとうございました。



龍ヶ崎まちづくり講座

「観光とまちづくり『無理しない』地域の在り方を考えるー」ご報告

10月5日(日)福井一喜先生(流通経済大学大学院社会学研究科准教授)を講師にお招きし、参加者20名(含オンライン4名)の皆様へ「無理のない地域の在り方を考える」をご講和ください、その後、時間が足りない程参加者の質疑応答が活発に行われました。

福井先生の自己紹介で会場の雰囲気が和んだところ、講座が始まると参加者の表情は真剣に……。

“2007年「観光立国」が国家戦略とされ、日本は観光振興とそれによる地域経済の活性化を目指してきたが、日本の各地でオーバーツーリズムや観光公害などの副作用が顕在化し、地域の人々や観光の担い手の多くは疲弊している。

では、その「観光立国」や「観光まちづくり」の担い手は誰なのだろうか。

それは、非正規労働者であり、女性・若者・高齢者・非大卒者等々である。

草津温泉でネパール人の方が働いていたり、ニセコではインバウンド向けのホテルに人手が集まり地域の介護等の労働力は不足。

賃金は上昇するが人手の問題、移住者は増えるが家賃が高くなつて住民は住みづらくなり流出してしまう。

このバランスをどう考える。観光の経済効果の正と負。

政府が観光を「地方創生の切り札」と位置づけている以上、地域はまちづくりの手段として観光を用いざるを得ない。

観光の本質は人間。働く人あっての観光。このことを置き去りにせず、皆が無理なく持続的に働く環境を守り、その結果的に観光の価値や地域を守る。

成功事例に惑わされず、観光まちづくりは、明確な答えがなく計画どおりに進まない。成功も失敗もない。

「とにかくやってみなきゃ街が生き残れないでしょ！」のような否定しにくい大きな声にどうしても拭えない疑問を感じる。

経済効果よりもプロセスを重視し、地域住民による自由で主体的な実践、声の小さな人を尊重し、問い合わせ続けること。”

「住民が住みやすい街こそ、まちづくり…無理しない」

とても大切なお話を伺え「これから龍ヶ崎について」市民としての考え方を問われた講座になりました。

参照:主著書

『「無理しない」観光 価値と多様性の再発見』
(ミネルヴァ書房)



講座のご案内

健康づくり講座

「認知症について知ろう！－予防と対応－」第二弾

昨年12月 龍ヶ崎済生会病院 認知症看護認定看護師の小林若菜氏の「認知症講座」を行い 参加者から認知症についてもっと聞きたい、勉強したいと言う声が聞かれ第二弾を企画しました。

日 時 11月30日(日)13:30~15:00

場 所 市民活動センター2階大会議室

講 師 龍ヶ崎済生会病院 認知症看護認定看護師・小林若菜氏

定 員 20人

参 加 費 無料

問い合わせ 龍ヶ崎市市民活動センター

0297-63-0030(月曜休館)



○龍ヶ崎短歌会
待ちいたる秋の気配に大櫻はや反応し樹形かわりく
群青の空に三日月地平は夕日小さき黒富士スマホの中に
○龍ヶ崎ミニショットハウス俳句講座
衣被湯気の向こうに母の笑み
皆既月食一人占めする案山子かな
吉田厚子
吉田 緑子

